

二〇一二年タイ大洪水と タマサート大学図書館

チューマン・テイラキット、シーチャン・チャンチーワ

二〇一一年後半のタイは、歴史
上もつとも壊滅的な洪水に苦しめ
られた。とりわけ中部平野の被害
は甚大で、数ヶ月にわたり高さ約
三メートルの浸水が続いた。

一〇月二二日、パトゥムター
ニー県にあるタマサート大学ラン
シット校では土嚢が崩壊した。二
四〇〇平方キロメートルに及ぶ
キャンパスは、四週間にわたり、
高さ一・五〜一・七メートルの冠
水が続いた。広範囲にわたる被害
の中でも特に深刻だったのは、七
五年かけて収集した大学図書館の
蔵書が失われたことである。

●タマサート大学図書館の概要

タマサート大学には、一一の図
書館が四つのキャンパス（バンコ
クのタープラチャン校、パトゥム
ターニー県のランシット校、ラン
パーン県のランパーン校、チョン

ブリー県のパッタヤー校）に散在
している。全図書館で、世界中か
ら収集した一〇〇万冊の図書に加
え、数千部におよぶ雑誌、新聞、
オンラインデータベース、さらに、
三万本を超えるCDとDVDの音
響映像資料などを所蔵している。

ランシット校の中央図書館に当
たる「ブオイ・ウンパーコーン図
書館」は、三階建てで、一階では
タイ語の図書、新聞、雑誌、参考
図書を所蔵し、貸出サービスや複
写サービスを行っていた。ラン
シット校には、その他に「ランシッ
ト校図書館」がある。ここには、
通常の開架書架には収められない
図書がタマサート大学の全図書館
から集められ、「ブック・バンク」
と呼ばれる保管庫に収納されてい
た。同図書館は、平屋の建物であ
るため、洪水が押し寄せた際の被
害が最も懸念されていた。

タープラチャン校の中央図書館
に当たる「プリーディー・パノム
ヨン図書館」は、地下の図書館で
あるが、オープンエアの吹き抜け
のスペースを設けている。そのた
め、ひとたび浸水が発生すれば全
てが失われることになったと思わ
れる。

●浸水前

二〇一一年の洪水により浸水が
バンコクから一〇〇キロの地点ま
で達した時、タマサート大学では
浸水に対する予防策を施した。

浸水対策として、図書館の周囲
に土嚢とコンクリートブロックに
よる擁壁を設置した。図書、雑誌、
音響映像資料、持ち運びできる電
子機器および備品は梱包して館内
の上階もしくは別の建物へ移動し
た。平屋建てのランシット校図書
館では、書架の下三段に収めた図

書を書架の最上段および積み上げ
た閲覧用机の上に移動した。

図書の移動作業は二〇一一年一
〇月一〇日に始まり、図書館職員、
タマサート大学や他大学の学生、
一般市民の有志らの協同体制によ
り、同月一四日までの五日間で完
了した。参加者たちは「人の輪」
を作って蔵書を入れた箱を次から
次へと手渡しして、図書を安全な場
所へと移動させた。

ランシット校は一〇月二二日に
冠水してしまったが、タープラ
チャン校は、洪水がバンコクを迂
回するような措置が取られたた
め、被害を免れた。



浸水前に避難した図書

● 浸水後

二〇一一年一月二八日、ランシット校から充分に水が引き、図書館の復旧計画の開始が可能となった。全ての図書館を閉館して、一二月一日には図書館の清掃が始まり、図書館職員や委託業者により、被害を受けた備品や図書が館内から運び出された。プオイ・ウンパーコーン図書館の蔵書に被害はなかったが、ランシット校図書館に所蔵されていた図書の八〇%が失われてしまった。

図書と雑誌の被害状況は、①浸水被害により修復不可能、②浸水とカビ発生の被害はあるが利用可



浸水後のランシット校図書館。壁に水跡が残る

能、③浸水被害はないがカビ発生

④被害なしという四つに分類された。蔵書の損失額は三億三〇〇〇万タイバーツに上ると推定された。

電子機器（コンピュータ、自動貸出機、自動ドア、その他備品）も浸水し、それらの損失額は一億タイバーツと推定された。

ランシット校図書館の空調装置は修理不可能となり、その推定損害額は七〇〇万タイバーツに上った。

● 緊急復旧計画

図書館の復旧計画立案のために、図書館管理者による委員会を組織するとともに、被害状況調査のためにドイツの資料保存センターから専門家を招聘した。緊急の復旧計画は次の通りである。

《図書と雑誌》

- 修復不可能なものは廃棄処分する。
- まったく被害のない図書はただちに浸水していない倉庫へ移動する。
- 浸水しカビが発生した図書のうち、重要なコレクションや貴重書など価値の高いものだけを本格的な修復を施すために保存す

る。

● 浸水被害はないがカビが発生している図書は、九六〜一〇〇%の濃度のアルコールを用いて全ページにわたり拭き取り清掃する。

《館内設備》

● 被害のない図書を収納する倉庫には、十分に換気を行い、空調装置を設置する。

● 館内の湿度を下げる。換気のためにドアと窓を開ける。除湿器を設置する。

● 修復した図書を空気乾燥させるための換気の良いスペースを確保する。

● 清掃後に館内を除菌のため燻蒸消毒する。

● 他の緊急復旧計画

● プオイ・ウンパーコーン図書館一階の改築を行う。二階以上に全ての図書館サービスと蔵書を移動し、一階は私語禁止の閲覧室、自習室、各種活動、展示のために使用する。

● プオイ・ウンパーコーン図書館二階のレイアウトを変更する。二階では、貸出サービス、資料相談サービス、音響映像サービス、複写サービスを提供し、コ

ンピュータルームや、外国語図書、学位論文、参考図書、雑誌、新聞を収納する書架を設置する。

● タイ語の図書はすべてプオイ・ウンパーコーン図書館三階へ移動させる。

● プオイ・ウンパーコーン図書館の外観と内装を整える。

● 長期復旧計画

タマサート大学では、ランシット校周辺に洪水に耐えうる擁壁を造設する予定である。また、タイプラーチャン校はすでにタイ政府によって、ラタナコーシン・アイラ



改装後のプオイ・ウンパーコーン図書館。図書は二階以上に収納

ンドという歴史的保護区域に指定されている。

二〇一一年の洪水の被害を受けたタマサート大学図書館や他の研究機関は、長期的な復興計画を策定するために会合を重ねている。

時間の経過とともに、紙媒体資料はいずれ消耗して失われていくことになる。重要な文書や他の情報フォーマットの電子化は、こうした資料を保存し、利用可能な状態にしておくために有効な手段である。電子化した図書館のコレクションは、保管場所を選ばず、さらには正確な複製やオンラインによる手軽な閲覧が可能になる。また、洪水被害その他の災害に対する保証にもなり、災害により図書館が閉鎖された際にも、引き続き蔵書を利用することができる。

●二〇一一年大洪水の情報拠点

現在、二〇一一年の大洪水に関する情報は、ウェブサイト「タマサート・デジタル・コレクション」(<http://beyond.library.tu.ac.th/cdm/>) で閲覧できる。これは、当図書館が情報拠点として社会に対する責任を果たすべく、可能な限り収集した大災害に関する

歴史的記録である。今日までに、洪水の歴史や各地域の洪水被害の経過の情報を正しく残すため、様々な情報源からニュースやデータを収集し、蓄積している。

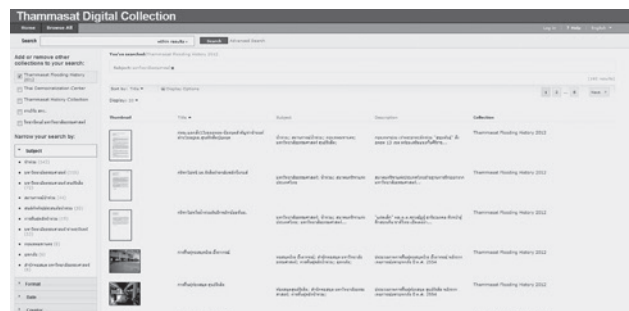
注・本稿はチューマン、シーチャン両氏の執筆によるものだが、二〇一三年一月に石井美千子、二〇一一年一二月に小林磨理恵が同大学図書館を訪問した際に得た情報に基づき、若干の補足を行った。

(Chuman Thirakit/タマサート大学図書館図書整備課、上級司書、Srichan Chanchewa/タマサート大学図書館前館長)

「タマサート・デジタル・コレクション」のご紹介

「タマサート・デジタル・コレクション」(<http://beyond.library.tu.ac.th/cdm/>) は、①タイ民主化センター、②タマサート大学学術論文、③タマサート大学洪水の歴史2012、④タマサート大学史コレクション、⑤TRF (タイ研究基金) の研究という5つの分野からなる。それぞれの分野には、PDF、ビデオ、写真などの電子媒体がアップロードされており、分野別に資料を検索することが可能である。

5つの分野のひとつ、「タマサート大学洪水の歴史2012」には、多様な新聞やウェブサイトから集められた洪水発生時やその前後に配信されたニュース記事が、PDF形式で蓄積され、公開されている。ダウンロードや印刷も容易にできる。それぞれの資料には、タイトル、主題、抄録、著者、出版社、発行日などの情報が付与されている。主題や発行日を限定して検索することもでき、洪水に関する情報を収集したい場合に変便利である。ニュース記事はタイ語で執筆されたものが大部分であるが、タイ語が分からない方もビデオや写真から洪水のインパクトを感じ取ることができるだろう。是非ご活用いただきたい。



「タマサート・デジタル・コレクション」のウェブサイト画面